

「リニア中央新幹線に関しての要望書」提出

トンネル工事にあたっては土地所有者の承諾を得るなど法律に則った対応を！
事前の説明を丁寧に行い、住民の納得の元で工事を行うことなどを要望

リニア長野駅周辺では国道拡幅工事に伴う移転等も含めて建物が撤去され、土台のみ残り災害跡地のような風景が広がっています。上郷上段地域では住宅地の下をリニア新幹線が通過しますが、地域住民には全く工事に関する説明会は開催されておりません。自宅の下をトンネルが通るが、陥没事故は発生しないのか？補償は？工事の騒音対策は？トンネル上の地権者に工事許可を得ずに工事をしようとしている。

リニアで移転を迫られる人、移転しても不十分な補償、建築費の高騰など心配は尽きません。駅周辺整備は6・5ヘクタールの広大な敷地を整備しようとしています。駅位置の決定については南信州広域連合の強い働きかけがあったといわれます。移転の問題については最後まで広域連合としても責任をもつ必要があります。最近では県の指定した土砂災害危険区域にリニア残土を搬入することが伝えられています。

私達「リニアから自然と生活環境を守る沿線住民の会」は昨年秋から準備し、4月30日の設立集会では南アルプスと上郷上段の地質についての講演、調布陥没事故の報告、6月20日には、本村伸子衆議院議員を迎え講演「リニア問題あれこれ」、飯伊各地の取り組みを報告し合いました。

また、6月1日にはJ R 東海中央新幹線長野工事事務所長、飯田市長宛てに「リニア中央新幹線に関しての要望書」を提出しました。

J R 東海からは6月27日、飯田市からは6月30日回答頂きました。その内容について報告します。

非公開にこだわるJ R 東海

6月27日J R 東海から要望書に対する回答がありました。（J R 東海は4名で対面）但し、回答を受ける側は3名まで、新聞記者等の他者は建物内への入館厳禁。回答は口頭のみで文書回答はしない。録音録画は禁止（J R 東海側は録音録画実施）とのことでした。こうしたJ R 東海の対応は6月21日付けの信濃毎日新聞で「非公開ばかりのJ R 東海」と報道されていますが、その一旦をまざまざと実感したしだいです。

工事は落札されるも詳細未定と説明拒む

風越山トンネル本体工事は令和7年末（3年後）着工のため、本体工事はまだ未定のため、現段階では説明できる状況ではないとの回答でした。しかし、風越山トンネル上郷側ではトンネル上5m以下の所有者からは土地の購入、5〜30mの所有者には区分地上権を設定しています。（鼎切石側も同様）また、風越山トンネルの一般競争入札は令和3年3月5日に予定価格（税抜き）442億4044万円に対して、落札率57.2%で落札されています。トンネル入口・出口の位置は決まっており、工事契約は済んでいるのに、工事詳細は決まっていないとして説明できないと回答をさけるJ R 東海は疑念だらけです。

陥没事故が発生した場合の責任は飯田市？？？

J R 東海リニア中央新幹線長野工事事務所長宛てに提出した要望事項は10項目です。

J R 東海回答の主な内容は

- ・「説明会実施は本体トンネル工事の詳細内容決定しだい、市と相談して実施する」
- ・「トンネル上の土地所有者の承諾は5m以下は購入5〜30mは区分地上権設定、30m以上の方には丁寧な説明を所有者を含む地域の方に実施する」とのこと。トンネルが30mより深い土地所有者に承諾を得ないのは法律違反になると何度指摘しても「丁寧な説明をする」との回答のみで土地所有者の承諾を得るとの回答はありませんでした。
- ・「陥没事故、地盤沈下が生じた場合の補償は飯田市リニア推進課と相談して実施する」との回答。事故が発生した場合責任は飯田市にもあるとも言おうのでしょうか？
- ・「回答説明では「丁寧な説明」を何度も言われているのですが、本体工事の詳細が決まれば、有無を言わず（説明会の実施のみで）工事を進めたいと感ぜられる回答でした。こうした進め方のままではいけば、最後に住民にツケが回ってくるように感じます」

リニアから自然と生活環境を守る
沿線住民の会

発行 2022年8月1日

代表世話人 熊谷清人
 大坪勇
 北林強

電話 090-1865-8868（北林）

飯田市からの回答

「都市部で行われている、住民への周知、事前の家屋調査、振動・騒音への対処、工事の進捗状況を住民に知らせることは重要と市としても考えている」と回答

飯田市からの回答は6月30日。住民の会から世話役代表はじめ7名他報道関係者、市役所側は副市長、リニア推進部長などが対面で行われました。回答が手渡された後一時間ほど質疑がありました。主な回答と私たちの受け取りは・・・

○災害対策は？

配土曾川、新戸川の災害の危険性について住民の心配は伝えている。市の改修工事や自然が持つ貯水機能や保水機能等を活用するグリッドインフラ等の技術も検討しながら災害発生時の可能性を減らす努力の拡大についで、明確な方向性を示していません。

○黙ってトンネルを掘ることは…

風越山トンネル上部の土地所有者にJR東海が工事の承諾を得る必要があるという指摘。説明会を認識してこの土地所有者にJR東海が今後「環境影響評価技術委員会」が開いている。この土地所有者にJR東海が今後「環境影響評価技術委員会」を開いている。この土地所有者にJR東海が今後「環境影響評価技術委員会」としてひと頂こう、市としてJR東海に「重要点がばかされていきますが、法的な問題について市としても改めて検討していくつもりとリニア推進部長は語りました。

○第三者的立場の専門家検討委員会

シールド工事について第三者的立場の専門家検討委員会の要望に、長野県の環境影響評価技術委員会がJR東海に「工事方法について科学的な観点での助言ではないし、豊丘村内の残土置場の例ではJR東海は助言に従おうとしませんでした。市の回答は論点をそらしています。

○家屋調査、地盤調査の重要性は認める

説明会については都市部（大深度法認可地域）同様に丁寧に行うよう、また住民への周知にたいは町づくり委員会を通じてではなく、全住民・全所有者に周知できるように要望。家屋調査、地盤調査、シールドマシン位置情報については市としても重要と考えているとのこと。

○リニアはいつたいつ来るのですか？

JR東海も長野県も「2025年開業を目指す」としている。飯田市としても当初の計画を変更する考えはないとのこと。JR東海も「2025年開業を目指す」としている。飯田市としても当初の計画を変更する考えはない。



リニアについて皆さんの意見をお寄せください
みななでリニアから暮らしと自然を守りましょう